

光高図書だより



2018年6月5日発行 光高校図書委員会

1年生も入学して早2ヶ月、高校生活にもようやく慣れてきました。梅雨の季節を迎えましたが、本を読むには絶好の季節です。図書室に来て、たくさんの本に出会ってみませんか。 1年1組図書委員(O, N)

新着図書案内



課題図書

※第64回青少年読書感想文コンクールの課題図書
2000字の感想文を書くのに適した本

※1, 2年生は、夏休みの宿題に読書感想文があります。「どの本を読もうか」と悩んだら、次の課題図書で感想文を書くことをおすすめします!!

本の専門家の先生が、新しく出版された沢山の本の中から、<自然・社会や身の回りの課題が込められていて、それを読み解いて、高校生の皆さんの考えを発信してほしい本>をピックアップしたものが課題図書です(青少年読書感想文全国コンクール事務局)。では、本年度の課題図書を紹介します。

そもそも感想文は何のために書くのでしょうか。それは、書くことによって考えを深められるからです。読書感想文を書くことを通して思考の世界へ導かれ、著者が言いたかったことに思いをめぐらせたり、わからなかったことを解決したりできるのです。だから読書感想文は「考える読書」ともいわれます。(読書感想文全国コンクール公式サイト)

「わたしがいどんだ戦い 1939年」

キンバリー・フルベーカー・フラッドリー／作 大作道子／訳

この本は第二次世界大戦中のイギリスを舞台に、アメリカの作家が書いた物語です。貧しい地区で生まれた主人公の少女エイダは足が悪く、母親から虐待を受けていました。しかし、弟と一緒に疎開したことから理解者に恵まれ、心を開いていきます。懸命に生きる少女の成長を描いた感動作です。

「車いす犬ラッキー 捨てられた命と生きる」 小林照幸／著

美しい自然と、人々が支え合う「ユイ(結い)」の伝統が息づく徳之島で、一人の男がめぐりあった“人生を変えた犬”。命の意味を問う感動の物語。(本の帯より)

「いのちは贈りもの ホロコーストを生きのびて」 フランシーヌ・クリストフ／著 河野万里子／訳

「これは『文学』というものでもありません。ただわたしは、まるで魂の砂漠にいたようだった戦争中のつらい思い出を、生きのびた者として証言しなくてはならないと思い、十二歳のころから、よみがえってくる記憶をあれこれ書きとめつづけていました」(本書より) ホロコーストを生きのびた、フランス人女性の手記、是非読んでみてください。

フィクション

※次の4冊は、著者の室積さんご自身が寄贈してくださいました。

本には、ご本人の直筆サインが入っています。

「ツボ押し達人」「ツボ押し達人 下山編」「桃色まちおこし」

「遠い約束」

自分の将来に大きな希望を抱いていた無邪気で明るい小学生たちの姿は、戦争によって悲壮な姿に変わってしまいます。それらの描写はあまりにも強烈で、このような過ちを二度と繰り返してはいけないのだといった強いメッセージを感じます。戦争という悲劇と向き合い、戦争の残した爪痕を切なく描ききっている一冊です。

「ソーリ!」 濱野京子／作 おとないちあき／画

「卒業」 重松 清／著

生きるって、“卒業”の連続だ。おとなになるために必要な四つの物語。(新潮文庫「高校生に読んでほしい50冊」より)

室積光さんからの寄贈本は、これまでの合わせて10冊程になります。光潮講話にも2度講師としていらつやり、全校生徒の前でお話をしてくださったと聞いています。私たち後輩をいつも気にかけてくださる先輩を誇りに思うと同時に、感謝申し上げます。

ノンフィクション

「命のビザを繋いだ男 小辻節三とユダヤ難民」 山田純大／著

ユダヤ難民の口から命の恩人として出てくる日本人の名前は二人あるという。一人は杉原千畝、もう一人が小辻節三だ。小辻節三とはどういう人物なのか。そして、俳優として知られる著者がなぜ、このような作品を著したのか……。

「それでも、日本人は「戦争」を選んだ」 加藤陽子／著

大学教授が中高生にした5日間の集中講義を本の形にしています。2010年小林秀雄賞受賞作品。

「NHKスペシャル知られざる大英博物館 古代エジプトの数学問題集を解いてみる」 三浦伸夫／著

古代エジプトで成立した最古の数学問題集「リンド・パピルス」。パンや飲み物、ピラミッドなどをテーマにつくられた問題は、当時の文明水準の高さを物語る貴重な資料となっており、そこから古代エジプト文明の姿をさぐります。(YA出版会より)

「NHK考えるカラス 「もしかして?」からはじまる楽しい科学の考え方」

NHK「考えるカラス」制作班／編 川角 博／監修

※次の『国富論』『エミール』は、3年生男子のリクエストにより購入しました。

「国富論 II」「国富論 III」 アダム・スミス／著 大河内一男／監訳

「エミール」上・中・下 ルソー／著 今野一雄／訳

「世界一やさしい読書習慣定着メソッド」 印南敦史／著

「世界に感動をあたえた日本人 上 スポーツ 国際理解・平和編」(株)童夢／編

「ジョーダンバットが鳴っている」 戸塚祥太／著 ※著者は、A.B.C-Zのメンバーです。

問題の答えを自分で考えたら、次のページを開いてみんなの考えを読んで知る……「もやもやしつつ、考えること」の楽しさを教えてくれる本です。

岩波ジュニア新書

「覚えておきたい 基本英会話フレーズ 130」 小池直己／著

近年の入試問題の出題例などを考慮し、ロングセラー『英会話の基本表現 100話』を改訂。(本書より)

「リベラルアーツの学び 理系的思考のすすめ」 芳沢光雄／著

英会話フレーズの間に織り込まれるコラムもおもしろい。楽しく勉強できます。

新着任の先生方にインタビュー！

第1弾

新着任の先生方に、次の各質問に答えていただきました！

- Q1 高校時代によく読んだ本のジャンルは？
- Q2 好きな作家は？
- Q3 今まで読んだ本の中で、一番のお気に入りの本は？
- Q4 今でも思い出に残って、忘れられない本は？
- Q5 自己変革できた本は？
- Q6 この1年間に読んだ本の中で最も感動した本は？
- Q7 これから読んでみたい本は？
- Q8 光高生におすすめの本は？

第2弾は
7月号に
掲載!!



国清校長先生
(地歴公民)

- A1 日本史関係（特に、昭和初期から太平洋戦争のころ）。
- A4 児島 襄（のぼる）の『東京裁判』（中公新書）。
- A7 『心を整える』長谷部 誠／著

A1 歴史小説など。

A2 司馬遼太郎、和田 竜。

A3 『のぼうの城』和田 竜／著

A8 『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』

岩崎夏海／著

**河村事務長
先生**

升谷教頭先生 (定時・数学)

A1 歴史や博物学。

A2 澁澤龍彦。

A5 『誘惑者』高橋たか子／著

A6 『そして最後にヒトが残った—ネアンデルタール人と私たちの50万年史』

クライブ・フィンレイソン／著

A1 マンガのみだったような気がします。

谷先生 (事務)

A1 新書（言葉や教育に関するもの）、小論文を意識して。小説はほとんど読んでいませんでした。

A2 原田マハ。

A3 『今日は、お日柄もよく』原田マハ／著

A7 話題になった本はすべて読んでおきたいと思っています……。

大野先生
(国語)

市川先生 (国語)

A1 ファンタジー、ミステリー。

A3 初期の頃の『キノの旅』シリーズ（時雨沢恵一／著）。短編集の形式で、一つの物事を多角的に見る力を養わせてもらった本。ライトノベルと言えど、内容はライトではない！

A8 上でも述べた『キノの旅』シリーズ。角度を変えて見たら、全く違う感想になるのか……と思います。広い視野を持って物事は見ないといけないなと感じさせてもくれると思います。

飯田先生
(数学)

A1 ミステリー、サスペンス、コミックス。

A2 池井戸 潤。

A3 『オレたち花のバブル組』池井戸 潤／著

A4 星 新一の『ポッコちゃん』。中学生の時に読み、“ショートショート”のいくつかは今も覚えている。

A5 『永遠の0』百田尚樹／著

A6 『そして誰もいなくなった』（アガサ・クリスティ／著）。有名だけど読んだことがなかった作品で、古い作品ではあるが、読みやすくおもしろかった。

岡田先生
(事務)

A1 いろいろな小説を読んでました。

A2 好きな作家は、よしもとばななさんです。『デッドエンドの思い出』という短編集がサラッと読めて、個人的にはおススメです。

A7 少しずれているかもしれませんが、まだ翻訳されていない海外の画集が読みたいです。絵は見ることもできて、その説明が英語だったりフランス語だったりします……。でも、いつか読んでみたいです。

先生方へのインタビューは、
図書日より7月号に続きます。